

議 事 録

会議名	令和4年度 第3回 福岡市地域公共交通会議
日時	令和4年9月20日（火）11時00分～12時30分
会場	エルガーラホール 7階 多目的ホール
議事概要	議題1 福岡市地域公共交通会議運営要綱の改正について 議題2 オンデマンド交通社会実験の取組状況について
発言者	発言要旨
事務局	<p>●令和4年度第3回福岡市地域公共交通会議を開会する。</p> <p><委員紹介></p>
事務局	<p>●委員7名に出席いただいております。福岡市地域公共交通会議規則第6条第3項に基づき、本会議は成立した。</p> <p>福岡市情報公開条例等に基づき、会議は原則公開としており、議事録については、後日、福岡市のホームページに掲載する。</p> <p>なお、本日10名の傍聴の申し出があり、入室を認める。</p> <p>議事の進行については、福岡市地域公共交通会議規則第6条第2項に基づき、会長にお願いする。</p>
会長	○それでは、議題1について事務局より説明をお願いします。
事務局	<p>議題1 福岡市地域公共交通会議運営要綱の改正について</p> <p><説明> 議題1</p>
会長	<p>○ただいまの事務局からの説明について、ご質問・ご意見等はあるか。</p> <p>(委員からの異議等なし)</p> <p>○それでは、議題1については了承とする。</p> <p>続いて議題2について、先ほど了承いただいた、運営要綱第4条第2項に基づき、交通事業者も入室させ、事務局とともに、説明をお願いします。</p>
委員	<p>○議題の前に、評価委員会と地域公共交通会議の関係性について確認したい。</p> <p>前回もやりとりしたが、評価委員会が地域公共交通会議より上のように感じているが、この関係性について、私は、同等もしくは評価委員会が地域公共</p>

	<p>交通会議の意向を受けた作業部会的なものであるべきと考えている。</p> <p>5月の地域公共交通会議において、報告という形でオンデマンド交通の具体的な話が出てきており、本来、ここで事前に確認があり、「それじゃ評価委員会を作ってお任せしましょう」という流れであれば、私共も異を挟むということはないのだが、どうしても、事後報告的な感覚、この地域公共交通会議が追認機関のように感じている気がするため、ここを確認してから、説明に入っていたきたい。</p>
<p>事務局</p>	<p>●地域公共交通会議は、道路運送法に基づき、地域の実情に応じた、適切な乗合旅客運送の態様及び運賃等に関する事項について、本会議で協議を調えることで、手続きの弾力化・簡素化を図ることができるとされている。したがって、市や交通事業者が様々な施策を行う中で、本会議で合意形成を図っていく必要があるものについて、議論していく場であると考えている。</p> <p>評価委員会は、市がオンデマンド交通社会実験を進めるうえで、交通事業者を選定するために限定的に設置した会議である。</p> <p>実際に運行するためには、道路運送法上の手続きが必要であり、関係者の合意を図っていくのが本会議だと考えているため、取り組み状況を報告し、今回も検討状況を委員の皆様と協議したいと考えている。</p>
<p>委員</p>	<p>○ありがとうございました。</p>
<p>会長</p>	<p>○それでは、議題2について説明をお願いします。</p>
<p>事務局・ 交通事業者</p>	<p>議題2 オンデマンド交通社会実験の取組状況について</p> <p><事務局説明></p> <p><交通事業者説明></p>
<p>会長</p>	<p>○事務局・交通事業者からの説明について、ご質問・ご意見等はあるか。</p>
<p>委員</p>	<p>○タクシー事業を行う上での採算性という観点から事務局にお願いがある。</p> <p>先ほど事業者から説明があったが、システム費用やタクシー事業者の費用について、私共も把握できていないところがあるため、評価委員会でそのような観点も含めて検討されたと思うが、次回の会議で、採算性のわかる書類を提示いただきたい。</p> <p>また、割引についてお尋ねする。</p> <p>障がい者は半額150円とあるが、割引分は誰が負担するのか。通常、タクシーはいろんな認可をいただいている中で、割引は1割引という認可を受けた</p>

事務局	<p>運賃があるが、タクシー側で負担している。今回は、誰が割引分を負担するのか確認したい。</p>
事務局	<p>●まず採算性について、今回の社会実験スキームの基本的な考え方として、この社会実験という初めての取組みの中で、利用者からの運賃に加え、地域の病院、商業施設の方々から協賛等もいただきたいと思っているが、それだけで採算を取るのは現状難しいと考えており、その辺りの検証も含めて、社会実験に取り組むものであり、今回は、運行にかかる経費と運賃収入や協賛収入の差額部分について、福岡市が負担することとしている。社会実験を通じ、オンデマンド交通がどのような形で生活交通確保の取組みに活用できるか、検証していきたい。</p> <p>次に割引負担について、社会実験では、運行にかかる経費と、運賃収入や協賛金の差額部分を、市が負担することとしている。</p>
委員	<p>○最終的に我々がいつも一番懸念するのは、タクシー事業者が事業をやることによって、事業としての採算割れが出ないか、事業者からの手出しはないかということであり、今回の障がい者割引も、市から負担いただけるということでよいか。</p>
事務局	<p>●今回の社会実験について、繰り返しになるが、実験で生じる経費と収入の差額分を市が負担するという形で進めている。</p>
委員	<p>○わかりました。</p>
会長	<p>○他にありませんか。</p>
委員	<p>○3点ほど質問したい。 まず、議題2資料の21ページに運行協議会とあるが、そのメンバーは。</p>
事務局	<p>●運行協議会は、エリア毎に、地域、交通事業者として今回選定したチョイソコグループ、それと福岡市で、運行内容や利用促進策等を協議する場である。</p>
委員	<p>○実際に運行するタクシー事業者はその運行協議会に入っていないのか。</p>
事務局	<p>●チョイソコグループの中に、今回運行いただく第一交通も入っている。</p>
委員	<p>○了解した。 次に、先ほど障がい者割引の話があったが、福祉部局の予算を使う考えはあるか。</p>

事務局	<p>●市の予算の話になるが、今回のオンデマンド交通社会実験は、公共交通を所管している住宅都市局の予算で実施している。</p>
委員	<p>○福祉割引について、タクシー事業者が負担している例が多く、割引分についてタクシー事業者が売り上げから負担している。</p> <p>これを今すぐどうこうとは、本会議の問題ではないが、将来的には、やはり福祉政策として、広く行政から負担すべきではないかという、この地域公共交通会議を通じて問題提起していただけるとありがたい。</p> <p>それと3点目、運行日について、土日祝日がおおよそ休みになっているが、過去の実績から、土日祝日の利用が少ないということか。</p>
交通事業者	<p>●資料のとおり他の自治体でも運行しており、365日運行している事例もある。</p> <p>その結果、統計的には、土曜日の利用は平日の約7割、日祝日の利用は平日の約5割であり、土日祝日はどうしても移動の需要が減っている。</p> <p>今回、事業の採算性を高める中で、まずは平日で運行し、運行途中で何回か会員にアンケートやヒアリングを実施するつもりであるため、そのときの意見・要望を踏まえながら、曜日を増やすものかどうか、運行協議会を通じて検討したい。</p>
委員	<p>○将来の検討課題として、土日祝日は排除するのではなく、将来的に含みを持たせる形で進めていただきたい。</p>
会長	<p>○他にないか。</p>
委員	<p>○今回複数校区を跨いでエリア運行されるとのことだが、資料16ページのエリア③について、例えば、小笹の高台から地下鉄赤坂駅や六本松駅まで行けるのか。高台から最寄りのバス停までではなく、このような移動が可能か。</p>
事務局	<p>●事業者資料25ページ以降が、エリア③の事業者から提案があった乗り場案である。</p> <p>27ページの赤坂校区については、地下鉄赤坂駅は、便利な所であり、勾配があるところではないため、南側の丘陵地あたりに設置してはどうかということで、議論している。</p> <p>もう一つの六本松駅については、28ページの草ヶ江校区で乗り場の現状の案を示しているが、南東部の谷などの丘陵地側の乗り場設置を検討しているが、六本松駅付近も、地域の方から交通結節点になるため乗り場が必要ということで議論している。また、次の29ページの小笹校区内では、商業施設等の乗り場設置も考えられており、現状の運行エリアとしては、例えば小笹</p>

委員	<p>から地下鉄六本松駅の乗り場までの利用が可能となるよう計画している。</p> <p>○例えば事業者資料の乗り場等の図の中に、緑のラインでバス路線が示されているが、いずれの地区も何らかの形でバス路線と関係してくる。</p> <p>私共としては山間部からバスへ乗り換えていただくというのが望ましいが、バス停の乗り場共用という話もあるので、西鉄も運行協議会に入れてほしいがどうか。</p>
事務局	<p>●運行協議会において、乗り場や利用促進策等について幅広く地域と協議しているところであるため、必要に応じて参加いただくことも検討したいと思うが、まずは個別に、乗り場設置などについて、説明するよう調整させていただきたい。</p>
委員	<p>○今回3つのエリアの話がされているが、特にエリア2とエリア3については、バスの運行系統に関わる話であり、オンデマンド交通で駅に行くことも可能にするとのことから、場合によってはオンデマンド交通の利用者が増え、バスの運行系統、便数を減らすということも考えられる話である。タクシーについては、前回の議事録にもあると思うが、事業の廃止までは至らなくとも、エリア2とエリア3は、非常に影響が大きい。特にエリア3は1,500台もタクシーがあり、タクシーを利用いただいていると発言していた。はっきりと事務局の方から、六本松駅までは行かないという発言はなく、こういう話がどんどん出るようであれば、現在、経営も非常に厳しい中、タクシー事業者の廃業につながりかねない場合もある。バスもそこまでないかもしれないが、事務局からは、バス事業者は必要に応じて協議会の参加を検討すると発言があったが、場合によっては、タクシー協会・事業者もオブザーバーで入れて頂いて、一番は、今日も傍聴されていますが、地域住民が望まれる形はどのようなものか知りたいと考えており、ぜひ協議会は丁寧に進めていただきたい。</p>
事務局	<p>●各エリアの運行協議会について、それぞれ校区数も異なり、進み具合に差がある状況であり、地域と話す際にも、オンデマンド交通ですべての交通問題を解決するものではないと説明している。</p> <p>既存のバスネットワークやタクシーが、場面場面で使われるように調和を図っていくことが重要であり、そういった中で、どうすれば地域の課題を解決できるか、より一歩前進できるのかというところは、大事な視点だと考えている。運行協議会については、今後も地域・事業者と話していく中で、必要なご意見については個別に関係者に説明させて頂くとともに、関係者が直接地域と議論したいということであれば、運行協議会に相談のうえ、検討させて頂く。</p>

<p>委員</p>	<p>○もう1点。今回運行される車両について尋ねる。</p> <p>本当に不便な地域にお住まいの方、丘陵地の方が、然るべきところまで乗車するというので、そこまで多くの利用は見込めないと考えていたが、六本松駅まで運行されるならば、運転手含めて5人乗りのタクシー車両1台を準備されているが、実際には5台10台と場合によっては必要になると思う。しかしながら、予約が一杯になれば、休みもなく働かされるということが起こりかねない。車両が足りないならば、事務局が考えている実証実験の狙いである、1台で不便な地域の方を運ぶというところとは変わってくるのではないかと考えるが、そこはタクシー側の話になると思うので、今後に向けて検討して頂きたい。</p>
<p>事務局</p>	<p>●運転手の休憩時間の確保等は事業者の方でしっかりやっていただくよう考えており、利用者は予約に応じた運行となる。繰り返しにはなるが、オンデマンド交通で全てを解決するというのは難しく、オンデマンド交通で既存のタクシーニーズをまかなえるとは思っていない。タクシーには、ドア・ツー・ドアで自宅まで来ていただくとか、深夜や夜間帯に急に必要になるといった利用もある。</p> <p>バス事業者も運転手確保に苦慮されている中、今後、オンデマンド交通により、乗り合いしながら交通手段を確保していく中で、今回は第一交通とチョイソコグループで運行を担っていただくが、将来的には地域のタクシー事業者も含め、オンデマンド交通の運行を担っていただく場合もあると考えている。そのような中、既存のタクシー事業と、オンデマンド交通、あるいは路線バスを上手く組み合わせ、それぞれが成り立つように、地域の病院や商業施設にも支えていただく、そういった仕組みが、持続可能な生活交通の確保に近づくのではないかと考えている。これが市内全ての地域で当てはまるものではないが、福祉施策、買い物支援等も含め、様々な組み合わせの中で、地域の高齢化が進む中での課題を一つでも解決できるように、取り組んでいきたいと考えている。</p>
<p>委員</p>	<p>○コロナ禍でタクシードライバーが2,000人弱もいなくなり、どんどんタクシーの数が減ってきている状況において、我々も交通が不便な地域で協力したいと考えている。ただし、タクシーは1.6kmで750円。初乗りは570円と定められており、例えばタクシーなら最低570円のところ、このオンデマンド交通は300円。この差を行政が補助してくれるならいいが、この問題は公共交通全体の中で解決してくれないと難しい問題だと思う。タクシーは運賃が時間制だと30分がいくらと決まっている。今回は、アイシンと第一交通だが、今後の問題として、アイシンには他のタクシー会社にも公開して声をかけてほしい。一般の人たちにも一緒にやりませんかとしないと、そこは今後</p>

も上手くいかないと思う。今の状況でタクシーの初乗り料金が 570 円のところを 300 円でやると、タクシー運転手に言われたら難しい。そこは今後の交通対策として、不便地域はどうしたらいいのかというのを考えないといけない。

西鉄もそうだが、エッセンシャルワーカーがどんどん減ってきて、タクシーも数が少なくなり、本当に困ったときに皆さんに回せないという状況が来る。そこはある程度守っていただきたい。我々もぜひ協力させて頂くが、やはり、タクシードライバーで運賃 300 円、それは全然採算が合わないと考える。それをどのように補助してくれるか検討いただかないと、本当の地域公共交通というのは生まれてこない。我々も一生懸命、いろいろな形で協力したいと思っている。西鉄も大変な状況で、路線だけはやる、小さな部分についてはタクシーが巡回して回りましょうという話に今後なると思う。点から点への移動で、電話したら 300 円で乗車できるとなるとタクシーとの差額は出るわけで、民業を圧迫するような形になり、タクシー事業者としては厳しい。

我々が公共の決まっている料金でやっている中で、ダンピングのようになるので、そこは検討してほしい。また、今後のタクシーのあり方も検討していかないと、タクシー事業は育たない。このままではタクシーがどんどん減るというのが今の現状であり、そこは西鉄とも上手くやりながら、タクシーを地域の皆さんである程度育てていかないと、おそらくこれは残っていけない。アイシンにお願いしたいのは、もう運行事業者は第一交通に決まっているので、今変更することはできないが、今後については、もっと一般に公開してほしい。我々は後から第一交通になったと聞いた。これは大きな問題だと思う。ちゃんと公開して、この会社と地域の人たちとやりませんか、とならないとこれから地域交通は上手くいかない。そこはぜひお願いしたい。決して我々は協力しないという訳ではなく、ぜひ協力させて頂きたいと思っている。そこは可能な限りで協力していきたいし、タクシーの場合は料金が決まっているので、行政も補助できるところは補助して頂きたい。そこはぜひお願いしたい。

事務局

- ご指摘のとおり、生活交通、地域公共交通を支えていくには、様々なチャレンジをしていかないといけないと考えている。そのうちのひとつとして、エアスポンサーという形で、地域の様々な事業者様にも支えて頂けないかと考えている。その中で、タクシーも乗務員の高齢化など様々な問題を抱えられていると思う。私共も、オンデマンド交通だけで全てをまかなえるとは思っておらず、タクシー事業者やバス事業者等と連携しながら、役割分担が出来る仕組みを見つけ出していけないといけないと思っている。今回の社会実験についても、持続可能な生活交通を確保するための仕組みづくりの一つとして取り組んでいる。今回は交通事業者とシステム会社に組んで応募いただく形で公募したが、事業者の募集方法も含め、この社会実験を通じて出てくる

会長	<p>様々な課題等を検証したいと考えている。皆様にもご意見を頂きたいと考えており、引き続きよろしくお願ひしたい。</p>
傍聴人	<p>○他にないか。</p> <p>今回、オンデマンド交通社会実験の取組状況ということで、その背景や趣旨、システム概要等について事業者から直接説明いただき、共有・議論をした。先ほど委員から地域住民の話も出たが、今回は社会実験に取り組みられている地域からも傍聴に来られているようですので、今後の参考として、本会議規則9条に基づき、会長としての提案だが、傍聴人からのご意見があれば伺いたいと考え、委員の皆様にお諮りしたいが、いかがか。</p> <p>(委員より異議なし)</p> <p>○それでは、傍聴人からの意見を伺いたい。</p>
事務局	<p>○乗り場について、既存のバス停を利用するのか。</p> <p>●乗り場については今後細かく検討していくが、今事務局で考えているのは、西鉄のバス停は、停車するバスも多く、オンデマンド交通も同じバス停を使用すると混雑するなど、運営に支障が出てくる可能性もあることから、現時点では、バス停から10m以上離れたところに設置してはどうかと考えている。今後、社会実験を進めていく中で、問題がなさそうであれば、バス事業者や警察等の関係者と協議を整える必要があるので検討したい。まず社会実験のスタートとしては、既存のバス停から少し離れたところに乗り場を設置出来ないかと考えている。</p>
傍聴人	<p>○タクシー事業者の言うことは分かるが、私共としては、複数校区を一つのエリアとしており、校区内だけでなくエリア内を運行してほしい。利用する立場からすると、例えば小笹の山からふもとのバス停まで降りるだけで300円というのは逆に高い。せっかくエリアを選定したのであれば、エリア内は走れるようにしないと、利用する側としては非常に難しいと思う。</p>
会長	<p>○他に傍聴人の方から何かご意見等はないか。</p>
委員	<p>○議題2の市資料5ページにオンデマンド交通が掲載されており、これがいわゆるAIを使ってエリア内を運行するというものだが、まさしく、傍聴人から発言があったように、利用者側に立ってみると、決められたエリアで、近くの停留所から郵便局とか自分たちが行きたいところまで行けるとというのが一番だと思う。運賃をいくらとるかは別にしても、そういうところが一番の</p>

	<p>望みだと思うので、やはりタクシー事業者としては、タクシー自体はどこかに寄ってではなく、当然目的地まで直接行くので、傍聴人の言われたイメージはこのオンデマンド交通というものだろうと思う。例えば今回予定されている定員4人のタクシーに、もし予約が集中すればすぐ一杯になる可能性もある。こういう点を見ても、もともと郵便局とか六本松駅に行くルートを決めつつ、財政的には市が負担し、運行はバス会社やタクシー会社がするといった運行がなされれば、地域住民の要望はより良く叶うのではないかな。今回、オンデマンド交通がタクシーに成り代わっているが、私たちが一番心配しているのは、やはり地域住民が要望されているところは、商業施設や駅、郵便局ということなので、タクシー1台で足りるのか、運行の仕方が今AIを使っているのかという点でそれがいいのかということが、今まで会議の場で、草ヶ江や小笹校区を議論した経緯がなかったので、私も発言している。やはり地域住民の要望としては、決められたところを地域住民が求める形でバスなりが走っていくと一番喜ばれる。それは当然、幹線はバスが走るだろうが、バスが行けないところをこういったものが部分的に走ると良いと思ってご紹介した。</p>
<p>委員</p>	<p>○補足として、タクシーとしては、校区内で走るということは全然問題ない。これが校区をまたがった場合が、地域公共交通会議の同意を得ないといけないのではないかなと思う。運行協議会や校区の議論の中でおそらく金額の問題もあって、300円でもいいし、それを校区の中で、地域住民が活用すると、それは十二分にタクシーも使ってもらいたいというシステムができれば良いと思う。ただし、遠くまで運行するとなると、タクシーと一緒にいいかということ、なかなかタクシーの側からは厳しいので、意見を述べた。金額は別として、行政にしても地域に対しても、タクシーも一生懸命やっている。校区だけをまわすということは全然可能だと思う。</p>
<p>事務局</p>	<p>●運行の仕方として、事前にルートを決めておいて運行するか、予約に応じて運行するかは、需要に応じてかと思う。需要が少ないエリアでは、事前に決められたルートを実行した場合、自分の用事がない目的地までずっと乗っておく必要があるという問題もある。そういった中で、オンデマンド交通を活用して、予約に応じて乗り合いをしながら、AI、機械の力を借りて最短で結ぶ、効率的な運行ができないかと考えている。</p> <p>また、エリアの広さについては、今回は車両1台でスタートするという点で、各エリアの方々から本当なら色々なところに行きたいという声も聞いているが、あまり広い範囲にするとタクシーとの棲み分けが難しくなり、次の利用の待ち時間が長くなるという問題もある。オンデマンド交通が効率的に運行できる範囲がどのくらいかという点について、1校区は狭い、複数校区がいけるのではないかと想定し、今回の社会実験では5平方キロメートルを</p>

傍聴人	<p>一つの目安としているが、地域需要などエリアの状況と併せて検証したいと考えている。路線バスとタクシーの間の役割を担えるようなものにならないか検証していきたい。</p> <p>○私たち利用する側からすると、小笹校区は高齢化が進んでいて坂も多く、オンデマンド交通を使うのは、ほとんど校区内になると思われ、小笹から赤坂という利用は、バスが通っているし、あまり無いと思う。ただし、今回の社会実験は、複数校区を一つのエリアとして選ばれたものであり、エリア内を基準にしないと話が変わってくる。</p> <p>地域としては、皆エリア内の移動ができる乗り物だという考えを持っているはず。校区内移動しかできないとしたら、小笹校区はまだ良い方だが、赤坂や草ヶ江校区は、狭い範囲をこの金額で、乗り合いで、成り立つわけがない。各委員が仰っていることはわかるが、この事業としてはエリア内でやってもらわないと、話が進んで行かない。</p>
事務局	<p>●事務局としても、校区はあくまで一つの通学の単位で、生活の単位になっているわけではないと考えており、今回はそういった意味でも、複数校区を一つのエリアとした運行を行い、課題等を検証していきたいと考えている。</p>
傍聴人	<p>○今後、会員登録について校区として何かやることがあるのか。</p>
事務局	<p>●今回の社会実験では、会員登録が必要なシステムであり、会員登録しないと利用が進んでいかない部分もあるが、行政と事業者だけではなかなか至らないこともあるため、地域住民への周知については、チラシの全戸配布が良いのか、説明会開催が良いのかなど、地域と一緒にあって、今後の協議会で検討していきたいと考えている。</p>
委員	<p>○私はどちらがどうという立場ではないので、あえてお願いしたいが、今回傍聴の方が10名も来られている。やはり、市や交通事業者が校区の中に入って、仕組みや使い方を丁寧に説明し、出てくる疑問に悩みながら対応していかなければ、単にこうやります、こうしてくださいという話ではなかなか理解が進まない。夜討ち朝駆けで、どこかで集会があったら担当者の方が説明に行く、常にチラシを持って説明するというのを繰り返しながら他自治体では取り組まれている。申し訳ないが、少し汗をかいていただいて、週に1回とは言わないが、数多く校区に入って説明いただくなど、この事業の趣旨や目的、将来福岡市が目指す交通政策などを丁寧に説明されれば、色んな要望が聞けて、もっとうまくいくと思うので、必要であれば私どもも同席させてもらっても構わない。どうかその辺はよろしくお願したい。</p>

会長	○地域に話していくというのが、運行協議会では。
事務局	●各エリアで協議状況は異なっているが、それぞれの運行協議会で地域の方や事業者とお話をさせていただいている。今後とも、地域の方のご意見をしっかりと伺いながら、どういったやり方が良いか、地域の方にご負担をかけることになるかもしれないが、一緒に検討を進めていきたい。
会長	<p>○他はよろしいか。</p> <p>本日は、オンデマンド交通社会実験の取組状況について非常に活発な議論をいただいた。公共交通が不便な地域の生活交通確保に課題がある中、今回、社会実験として、オンデマンド交通の取組みの課題等を確認していくということであり、生活交通を確保するための一つとして機能するのか検証したいという趣旨だと事務局の説明から認識している。今回は取組み状況の説明ということで様々なご意見を頂いたが、今後とも状況に応じて適切に対応するとともに、本会議の委員の皆様と意見交換、情報共有をしながら進めていただければと思う。</p> <p>○その他全体を通して意見等はあるか。 (意見なし)</p> <p>○以上で議事については終了し、進行を事務局にお返りする。</p>
事務局	<p>●活発な議論ありがとうございました。本日議論いただいたオンデマンド交通社会実験については、引き続き、今後の運行開始に向けて、地域や交通事業者とともに進めていきたい。</p> <p>議事録については会議資料とともに公開するため、委員の皆様には後日議事録の確認をお願いします。</p> <p>次回の会議は、オンデマンド交通社会実験について、各エリアで運行計画を検討中であり、先行するエリアの内容について会議に諮らせていただきたいと考えている。日程については現在調整中であり、改めて通知させていただくが、できれば10月上旬に開催したいと考えている。各事業者には事前に説明させていただきたいと考えている。</p> <p>今回の会議は以上で閉会する。</p>